

平成31年2月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

平成31年2月定例教育委員会会議録

- 1 開催日時、会場
平成31年2月26日（火） 13時30分～15時40分
川西庁舎 4階 第1研修室
- 2 出席
蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員
- 3 説明のため出席した者
子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山岸一朗）、指導管理主事（山本平生）、生涯学習課長（鈴木規宰）、文化財課埋蔵文化財係長（菅沼巨）、スポーツ振興課長（井川純宏）
- 4 会議の内容
蔵品教育長
・（十日町市教育委員会会議規則第24条ただし書にもとづき）議案第5号を秘密会とする旨発議

（全員了承）
 - （1）会議録の承認
1月定例会 署名委員：浅田委員、庭野委員
 - （2）会議録署名委員の指名
署名委員：庭野委員、吉楽委員
 - （3）報告・協議事項
 - ① 共催・後援等報告
・資料のとおり

（特に質疑等なく了承された）
 - ② 報告第1号 損害賠償について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

山岸学校教育課長
・資料に基づき説明

（特に質疑等なく了承された）
 - ③ 報告第2号 平成31年度からの公民館体制について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・土日の鍵貸し出し対応には批判があり、公民館活動が停滞するのではないかという声を聞いている。見直しの説明に、地域自治と市民活動を推進するとともに多様化する市民ニーズに応えるとあるが、どれくらい費用削減になるのか。

鈴木生涯学習課長

- ・無人だが鍵による貸し館はできる。土日の利用が、およそ2から3人で図書が10冊程度ということから廃止の見直しをさせていただく。無人だから使えないということではない。

庭野委員

- ・地域では土日に集会などがある。地域の行事で使うものを公民館に置くため、いちいち鍵を借りることが非常に煩雑になる。むしろ平日を閉館し、土日は開館して、地域の人々がさっと入れることが本来の社会教育ではないか。結果的には、平日に社会教育活動や公民館活動をするように言っている。大丈夫な人もいるが、非常に億劫に思う人もいる。

富井文化スポーツ部長

- ・各地区の公民館に説明させていただき、庭野委員のご意見のような内容を多数いただいている。実態では、土日曜日の利用が極めて少ない中で、シルバー人材センターあるいは臨時職員で体制を整えながら開館している。実際にそこで1日受付をしている必要性が、あるのかどうかを考えると、鍵の貸し借りでも足りるという状況が見えていることからこの判断をさせていただいた。当面この体制で取組み、不都合があれば体制を考えなくてはいけないと思うが、今すぐにこの体制ということではなく、今まで議論してこなかったこともあり、2年程度を見て地区館のあり方として正しいのかどうか、しっかり議論しながら進める必要があると思う。現状を踏まえた中で取組ませていただきたい。

庭野委員

- ・十日町市の社会教育は、研究者にとっては全国的にも注目されていて、そこが社会教育を衰退させるようなことをすることは、経済的な面があるとしてもあまりにも拙速だと思う。これ以上言っても仕方ないので承諾するが、これも少子高齢化による地域の活性化を奪うことになる問題である。鍵を借りると簡単に言うが、心理的な問題が大きい。

佐藤委員

- ・それはあると思う。鍵を借りてまで、と考える人も居るだろう。

庭野委員

- ・そうすると、止めようということになって、1つの活動が終わってしまう。高齢化でやめることもあるだろうが、市民活動を推進するのに本当にこれでいいのかと思う。

蔵品教育長

- ・さらに市民の声を聴きながら考えていきたい。

(以上の質疑のあと了承された)

④ 報告第3号 東京2020オリパラクロアチアチーム事前合宿誘致に係る予算概要及び債務負担行為について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

井川スポーツ振興課長

- ・資料に基づき説明

吉楽委員

- ・ボランティアの運営費が上がっているが、PR活動、イベント活動などに市民のボランティアが参加いただくとと思う。事前合宿における具体的なボランティア活動とは何をするのか。

井川スポーツ振興課長

- ・事前キャンプのためのサポートになる。用具を準備するとか練習中の警備であったり、子どもたちとの交流などにも様々なお手伝いをいただくことになるだろう。

吉楽委員

- ・一般成人というよりも中学生などが、競技の練習をしている選手のサポートをするようになるのか。

井川スポーツ振興課長

- ・教室等の子供たちが参加するイベントではそういうこともある。大人でもサポーターやボランティアで参加する。2002年のワールドカップサッカーでも、一般の方々を募ってキャンプを運営していた。

吉楽委員

- ・事前合宿は、具体的にはいつからどのくらいの期間になるのか。

井川スポーツ振興課長

- ・オリンピックが来年の7月24日開幕となる。協定書の第5条にあるが、詳細なキャンプ日程や人数、その他の諸条件については、今年詳細を協議する。合わせて6種目の競技団体と協議して決定する。

庭野委員

- ・十日町市の負担金が1200万円で、先ほどの公民館の削減される額が400万円であり、市民の中には興味ないものに費用を使うことに疑問を持つ人もいるだろう。自分では理解するが、この予算のバランスについては説明が必要ではないか。

吉楽委員

- ・自分の感覚では、身の丈に合った予算という行政の見直しとオリンピックに関するものの時期が丁度重なったとみている。どうしても必要な対策もあり、小中学校の統合なども精神論であれば必ず否定されるが、これからは全てにおいて色々な事業のコストの見直しをするであろう。事業の廃止や公民館の統合に向けた議論なども出てくるのではないかと予測している。オリンピックはお祭りのような国家的なイベントであり、クロアチアの事前合宿が小中学生に良い影響を与えることから、そんなに大きな

投資額ではないと思う。

庭野委員

- ・私も反対ではないが、反対する人に対して説明ができないのでは困る。大地の芸術祭でも反対する人はいる。

吉楽委員

- ・事前合宿をレガシー化して残すというのは、大きなテーマだと思う。

井川スポーツ振興課長

- ・2002年時のワールドカップでは6千万円の支出があったが、市でも4千万円近い一般財源を付けて、当時世界的な大イベントのキャンプを市が受け入れるとなり、4千万円を使ってどういう効果があるのかという議論がされたと思う。終わって17年が経ち、今もレガシーとして交流が受け継がれている活動は、全国でもなかなか無いということが、目に見えないかもしれないが効果ではないか。
長岡市では、昨年パンパシフィック水泳があり、今年世界水泳選手権がある。オーストラリアがその事前合宿をするが、キャンプ中の宿泊費、市内から会場往復のガソリン代等を負担するというのを聞いている。

富井文化スポーツ部長

- ・平成31年度予算から平成33年頃に向かって取り組んでいる、市の財政規模を見据えた予算のあり方について、重いものと感じている。単純に予算削減だけでなく、その背景にある時代の変化をしっかりと捉え、各部署が1から考え直して皆さんの意見を聞きながら取り組んでいく。その中で示された削減の規模があったので、そこに見合うように考えて予算編成をした。繰り返しになるが、公民館については70年という長い歴史の中で、かつては全国に誇れる活動があったけれども、社会の変化の中で変えなくてはならない活動もあるという視点から、方向としてはご理解いただき、結論ではないけれども、引き続きご意見を伺いながら変えていきたい。一方でスポーツ合宿に力を入れていることについては、例えば大きな都市ではJリーグやBリーグなどで市と一体化してスポーツの振興を図っている。プロ野球の広島カープでは、開幕戦チケットの予約券に何万人もの人が殺到している。スポーツを通じた活性化をできる都市もあるが、当市では難しい。クロアチアという世界でも有数のスポーツが優秀な国と交流しながら、子どもたちにスポーツを通して夢や希望を与えられたら非常にありがたいと思う。人口が減って、財政が厳しいとは言え、全てを縮小するのではなくメリハリのある取り組みを文化スポーツ部としてはしていきたい。

庭野委員

- ・今の考えを市報に載せ、市民にアピールしていいと思う。現実的にはそれしかないだろう。

吉楽委員

- ・クロアチアは、世界に名立たる文化遺産がある国家である。EUの中でも東欧は親日国がでてきている。この後のレガシーとしては、縄文の火焰型土器や織物産業の個々ではなく、文化交流しか繋がらないと思う。クロアチアを窓口としてヨーロッパに十日町を知らしめていく交流が大事である。これはチャンスであると思う。若い子は、クロアチアの文化もすぐに理解されるだろう。

庭野委員

- ・市ではコモ市との交流もある。毎年若い人が2人派遣されている。

蔵品教育長

- ・コモ市とは姉妹都市として、都市同士の交流であり、クロアチアは国と市の交流であるという違いがある。

吉楽委員

- ・それはリスクもあるだろうが大きな違いだと思う。

(以上の質疑のあと了承された)

(4) 議決事項

① 議案第1号 平成31年市議会第1回定例会提出補正予算案の承認について

蔵品教育長

- ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

菅沼埋蔵文化財係長

- ・資料に基づき説明

井川スポーツ振興課長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく議決された)

② 議案第2号 十日町市教育相談センター条例を制定する条例案の承認について

蔵品教育長

- ・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

蔵品教育長

- ・教育相談センターの相談体制について、説明を求める。

山岸学校教育課長

- ・今のこやかルームは引き続き職員2人である。嘱託指導主事が2人、相談員は4人が常駐する。相談の電話を受け、必要に応じて学校に訪問して相談を受けるという体制をとりたい。そこから情報が上がってきたものは、今までどおり学校支援班が対応

する。

蔵品教育長

- ・嘱託指導主事については、校長経験者が2人配置されている。

山岸学校教育課長

- ・その2人を中心に核となって取り組むよう考えている。

吉楽委員

- ・相談の対象は、小学生、中学生の本人もしくは保護者ということであり、その前後の年齢の子どもたちは対象にならないのか。例えば、高校1年生が相談に来ても、組織の性格上違うということか。

山岸学校教育課長

- ・高校生が相談に来た時には、断るのではなく柔軟に対応するよう考えている。

吉楽委員

- ・高校に入学しても中退した場合、子どもたちが頼れるのは中学校当時の担任であるが、その時点で直接の生徒ではないため、相談センターに相談しても構わないものか。

山岸学校教育課長

- ・発達支援センターや他の機関と連携しながら対応したいと考えている。

吉楽委員

- ・連携というのが、第3条の教育相談に関することの中に、色々な機関と連携するということを分かりやすくすれば、一般の方にも分かりやすいと思う。

蔵品教育長

- ・適切な専門機関と連携するということである。

吉楽委員

- ・そういう次のステップを教えてもらえることも相談のひとつだと思う。

庭野委員

- ・十日町市のいじめ不登校について、先生方に指導する今現在のメインの講師は誰か。

山岸学校教育課長

- ・今年は赤坂真二さんを講師に学級づくりなどを3回シリーズで実施した。

庭野委員

- ・心理関係のカウンセラーは、いないのか。

山岸学校教育課長

- ・スクールソーシャルワーカーは、今年度は週1回来ていただいている。来年度からはその方の代わりに、新潟県のスクールソーシャルワーカーをスーパーバイズした方に月2回ほど来ていただき、学校の対応や臨床心理士に指導していただき、充実させたい。

蔵品教育長

- ・十日町市は不登校が多いので、これからも力を入れていかなければならないと思っており、専門の相談センターを設置したということである。

(以上の質疑のあと議決された)

③ 議案第3号 越後妻有文化ホール・サポーターズ「段サポ」実施要綱の一部を改正する告示について

蔵品教育長

- ・議案第3号を上程し、事務局の説明を求めた。

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明
前回佐藤委員から、高校生等の会員についてご質問がありましたが、他の文化ホールなどでも年齢での区分けはしていないことから、一般会員と同じ取り扱いとしたい。

吉楽委員

- ・第11条に会員が会員証を第三者に貸与または譲渡したときは資格を取り消す条項であるが、法人会員1口が1つの催しに対し4枚まで渡されるチケットが、譲渡転売されることとは関係がないのか。

鈴木生涯学習課長

- ・そのとおりで、会員証については資格の取り消しになるが、500円割引の券についてはそうではない。

吉楽委員

- ・そういうことは無いと思うが、世間ではチケットの転売などの話があるので質問した。

鈴木生涯学習課長

- ・通常は法人に500円割引のチケットを配布し、どのタイミングどのイベントでそれを使うかということになるが、そこまで考えなくて良いのではないかと。

庭野委員

- ・具体的には、会員になると行きたいイベントの時に電話して割引券をもらうことになるのか。

鈴木生涯学習課長

- ・会員には最初に割引券を送付するので、市の主催または文化協会連合会との共催の対象事業をチラシなどに明記して、先行予約や割引券を使っでの購入となる。

(以上の質疑のあと議決された)

④ 議案第4号 平成31年市議会第1回定例会提出平成31年度当初予算案の承認について
蔵品教育長

- ・議案第4号を上程し、事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

菅沼埋蔵文化財係長

- ・資料に基づき説明

井川スポーツ振興課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・教員住宅の解体だが、中条の教員住宅は残念ながら空き家であるので、将来的には解体する方向なのか。

長谷川教育総務課長

- ・教員住宅は老朽化が進んでいることと、入居される方が少ないため、ある程度入居があり、施設的にも使用可能なところを残し、入居者の希望のないところは順次解体の方向で考えている。

庭野委員

- ・教育委員会の範囲ではないかもしれないが、大地の芸術祭では空き家や閉校校舎などを利用してきた。教員住宅は、部屋数もあるし丁度いいと思うが、小さな作品を部屋ごとに並べると見栄えがすると思う。

蔵品教育長

- ・観光交流課と話をつないで検討したい。

庭野委員

- ・37ページの笹山の件で、目的と効果に来訪者の縄文に対する満足度を高めるとある。主旨は分かるが、笹山縄文館でも見て触って体験することで来訪者は非常に喜んでいる。発掘するだけでなく、それを観光面でどう活用するかを広げてほしい。

菅沼埋蔵文化財係長

- ・もちろん笹山遺跡は学術調査と合わせて、ソフト的なことも充実させて、遺跡に来られた方にも満足度を上げていきたいと考えている。

庭野委員

- ・松茸神社はいくつもあるが、松代に松茸神社の本社があることを意外と知らない。若い人にもっと知ってほしい。

菅沼埋蔵文化財係長

- ・松茸というのは、からむしの芋ということで、機織り関係の神社である。本社がある

のはここだけで、上杉謙信の軍配があることと松之山街道の途中にあることから、上杉謙信に縁がある神社である。

吉楽委員

- 学校給食に注目して見たが、将来また給食費の値上げがあると思った。子どもは減るけども基礎的な経費はそれほど変わらない。また値上げがあるかも知れないという事実を情報として出すべきではないか。地産地消とふるさとを愛しということが、繋がっていくという教育の在り方から、地域の子どもたちをサポートする形で呼びかけ補ってあげれば、財源が見えてくるので地元のコシヒカリも使えるようになるだろうし、地元の人たちが取り組んでいける食材購入単価が見えてくる。このまま放置すると、一定の給食費に抑えようとして安い輸入食材に流れてしまい、地産地消が遠ざかってしまう可能性がある。そのことが地域の人たちに与えるメンタルの影響は大きいと思う。義務教育の間に、給食で地元の食材を食べていないということは、地域の農産物に対する理解が薄れていくと思う。2年か3年でまた値上げというのであれば、広く協力をいただく方向で、地元の食材の文化を守ることが柱にないと、なし崩し的に繋がっていってしまうので、検討いただければと思う。

山岸学校教育課長

- 値上げに関しては、食材費は保護者負担であり、全体の経費も関わってくるが、食材に関しては、十日町市の地産地消率は、県内で同様の統計を取っているところと比べ、10ポイント以上高い35%まで上がっている。コシヒカリに関しても、どういう協力ができるのかを生産者と話をしている。

庭野委員

- 使われない田んぼを学校田として借りて、学校で作ったコシヒカリを給食で食べられるようなシステムを作ってはどうか。

佐藤委員

- 給食費にこんなに差があるとは思わなかった。義務教育のうちは給食費を無料にできないかと思っていたが、子どもたちを育てる大事な食事であるので、コシヒカリを食べさせることはこの地域として大事なことはないか。また、奨学金は無利子でありがたい制度であると思う。

長谷川教育総務課長

- 市では、大学、高等教育学校に進学の方には、市で貸与を継続して実施している。昨年からの返済に関して、短期間で返還もできるが期間を長くして負担を軽くする改正をした。申込件数は、20人から40人程度の毎年増減があるが、条件に合った方については貸与している。

浅田委員

- 給食費については、多少上がっても良いものを食べさせてほしい。保護者負担分しか頭になかったが、それと同額程度を市が負担していることを知った。

蔵品教育長

- 市報などでも知らせるとともに、給食費の値上げを保護者に通知する際に、そういう実態をお知らせするようにしてはどうか。

山岸学校教育課長

- どのような方法でお知らせしたらいいかを検討したい。

庭野委員

- 農家でない家は、米を買っているのにコシヒカリを食べているかわからないが、もしかすると給食でコシヒカリを食べないと、コシヒカリを食べないで大人になる子供があることを頭に入れておいてほしい。

蔵品教育長

- 給食でこしいぶきを食べているので、コシヒカリの美味しさがわかったという効果もあるようだ。子どもに聞いたら、コシヒカリを10点とすると、こしいぶきは9点ということであった。

(以上の質疑のあと議決された)

(5) その他

① 学区適正化検討委員会について

教育長

- 事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- 資料に基づき説明

庭野委員

- 本当に川西側の段丘から中学校がなくなって良いのか。全中スキー大会にお手つだいにいったが、クロスカントリーコースがあるのにあの台地に中学校が無くていいのかと思う。松代中や吉田中が、南中に一緒になることに価値があるのか。地域の地理的なバランスを考えて、吉田の台地に学校があることは一つのシンボルである。予算の関係や校舎の関係で学校を一緒にするのは乱暴過ぎると思う。反対は絶対に出るだろう。十日町中が減ってくるのに、中心に集めればいいという発想がおかしい。市のエリアの中に学校が点在することが価値のあることで、ただ集めればいいというものではない。

吉楽委員

- 地域にあった学校が閉校していくというのは、歓迎する流れにはならない。少子化の流れと実際に小学生の保護者の置かれている環境を考えると、ほとんど人間関係が変わらず中学生まで進むわけだが、それを大人が何も対応しないで放置できるかということが今の時代は難しいと思う。注視したいのは、配慮事項と市の諸施策であるが、配慮事項を表に出していただきたい。より良い環境で学習ができる環境が生まれまると、具体的に分かり易く出してほしい。伝統ある小学校や中学校を地元にとってきた当時の人たちも、より良い環境で学習ができるということで、地域が動いて学校を持ってきたと思う。それが第一義であれば、地域に冷静に判断いただくためには一番であり、それを目指すためにこういう考え方で再編をしているという繋がりにした方が良いと思う。単なるブロックの組み合わせのように出されると誤解を生むと思う。大人の目としての教員数がある程度ないと学校運営が難しいということを出さないといけない。これから小学校でも英語教育が始まり中学高校と繋がり、大学入試では聞いて話すことが出てくるという中で、より良い教育環境には加配教員が必要ということを地域や保護者にもはっきり説明する必要がある。

佐藤委員

- 小中一貫と呼び掛けていながら、それを崩して少ないから一緒にという考え方に抵抗を感じる。学校がなくなると出て行った子どもたちが帰ってきたときに寂しいことだと思う。検討委員会では懸命に議論されているのは分かるが、何とかぎりぎりの線で残せないかと思う。それは綺麗ごとで、状況を考えた場合は、大勢の子どもたちと一緒に学んだ方がよいと思うが、気持ちとしては結論が出ない。

② 最近の動きについて

- 各部長、各課長等が資料に基づき説明

③ 3月の主な行事予定について

- 資料に基づき説明

④ 次回（3月）の教育委員会の開催日時

3月臨時教育委員会 3月15日（金）9時30分から開催することに決定した。

3月定例教育委員会 3月26日（火）14時から開催することに決定した。

-----以下秘密会-----

- 議案第5号 平成31年度学校管理職人事異動に関する承認について
（十日町市教育委員会会議規則第30条の規定により秘密会の議事は、会議録には記載しない。）

以上で、15時40分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記